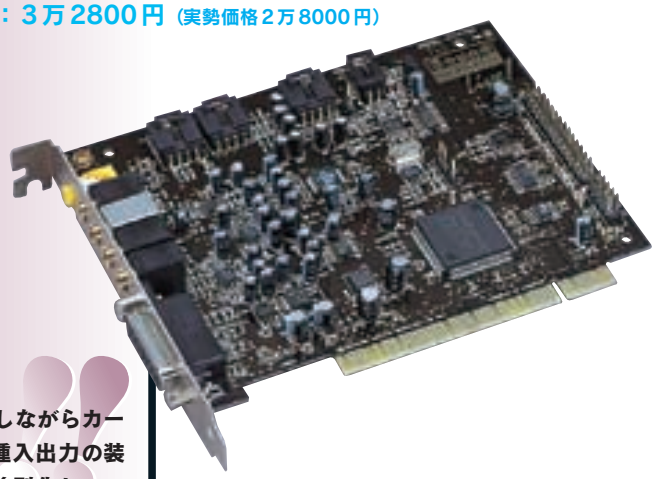
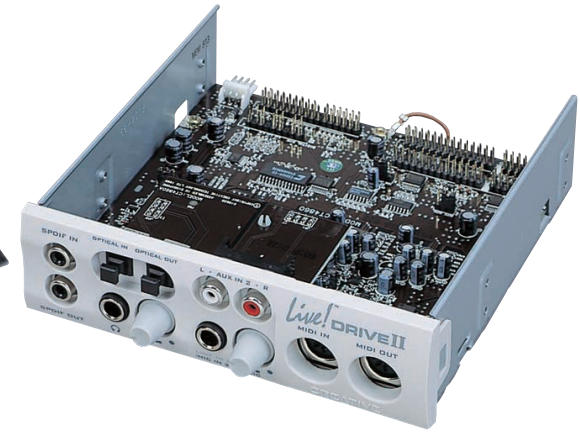
クリエイティブメディア

SoundBlaster Live！ Platinum

価格：3万2800円（実勢価格2万8000円）

フロントアクセス可能なLive! DriveⅡを得て SoundBlaster Live! シリーズ一新





POINT

EMU10K1を使用しながらカード設計を一新。各種入出力の装備と付属ソフトで差別化しつつも，従来シリーズより低価格化された。Platinumには5インチベイ用のLive！DriveⅡが付属し，使い勝手が飛躍的に向上した。

価格
3万2800円（Platinum）
2万5800円（Digital Audio）
1万5800円（X-Gamer）

問い合わせ先
クリエイティブメディア
☎03-3256-5577

サウンドチップ
EMU10K1

ボイス数
1024ボイス（ハード64ボイス＋ソフト960ボイス）

対応バス
PCI（2.1）

インタフェース
メインカード：Digital DIN/4ch S/PDIFデジタル出力，ライン入力，マイク入力，フロントライン出力，リアライン出力，MIDI/ジョイスティックポート
オンボードコネクタ：CDオーディオ入力，AUX入力，TAD入力，CDデジタル入力，デジタルI/Oコネクタ
デジタル入出力：Live！ DriveⅡ
光デジタル（角型）入出力，同軸デジタル（RCA）入出力，AUX入力Z（LR独立RCA）×1，ヘッドホン出力，ライン入力2/マイク入力2（マイクゲインコントロール付き），MIDI入出力
デジタル入出力：Digiral Audio
ライン入力2，ミニMIDI DIN入力，ミニMIDI DIN出力，デジタルDIN出力，同軸デジタル（RCA）入出力，光デジタル（角型）入出力

対応システム
Pentium/200MHz以上，64MB以上（推奨128MB）のメモリ，100MB以上のHDD空き容量，PCIスロット，空きIRQ1個

対応OS
Windows 95/98/NT4.0

コストパフォーマンス
機能性/操作感
総合評価

クリエイティブメディアのサウンドカードSoundBlaster Live！シリーズが，この秋，一新された。新Live！シリーズは上位から「Platinum」「Digital Audio」「X-Gamer」の3製品の構成となる。今回は，Platinumを中心に，新Live！シリーズの概要を紹介しよう。

多彩なデジタルインタフェースに注目！

従来のLive！シリーズでは，グレードによって付属するデジタル入出力用のインタフェースや，カード本体の端子などが違い，利用できる機能にも差があったのだが，今回の新Live！シリーズでは本体のカードはすべて共通となった。

メインとなるカード本体は新たに設計されたもので，パーツの種類や配置，ラインの引き方などが変更されている。搭載チップは従来どおりEMU10K1だ。内蔵のエフェクトを使って，EAX対応ゲームでは単に3Dオーディオを実現するだけでなく，周囲の環境を反映して音色や反響を変化させたり，MIDI，WAV，CDなどのすべてのソースを4スピーカーを使って前後左右好きな位置から再生したり，SoundFontを使ったハードウェアによる64ボイスのウェーブテーブル音源を利用できる。これらは，Live！シリーズすべてが持つ基本機能だ。これに加えて，充実した付属ソフトと多彩な入出力のサポートがLive！シリーズの特徴といえるだろう。

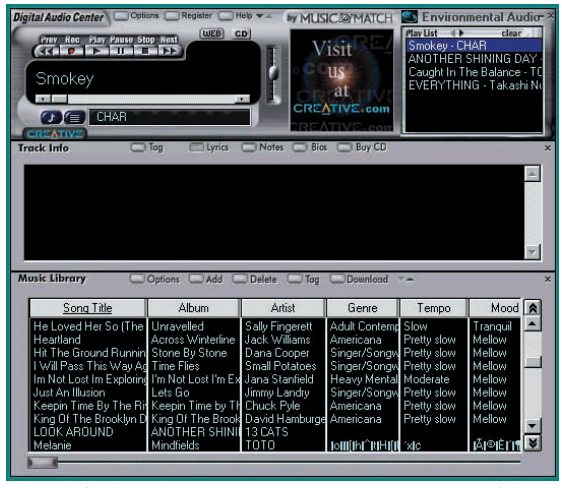
では，グレードごとにハードウェアを見てみよう。最も低価格のX-Gamerのパッケージに含まれるハードウェアは，基本的に本体カードのみだ。バックパネル部にはMIDI/ジョイスティック端子とフロントとリアのスピーカー出力，マイクとラインの入力端子を装備する。このほかにDIGITAL OUTという端子もあるが，これは専用の変換コネクタを使ってFPS2000やDTT2500など同社のマルチスピーカーシステムにデジタル接続するためのものだ。このケーブルは付属せず，まだ発売もされていないため，現時点ではX-Gamerのパッケージだけではデジタルオーディオの入出力はできないことになる。

上位のDigital Audioになると，デジタルインタフェースカードとデジタルI/Oモジュールが付属する。これによってオプティカル，コアキシャルのデジタルの入出力と，前述のスピーカーFPS2000などとのデジタル接続が　サポートされる。デジタル入出力は，オプティカル，コアキシャルともにデジタルI/Oモジュールに装備され，これは手元でケーブルを接続できるため非常に便利だ。また，デジタルインタフェースカードには，スピーカー出力用のデジタルDIN端子，ミニDINのMIDI端子を装備している。

最上位グレードのPlatinumでは，より多彩な入出力をサポートし，さらに接続が簡単にできるLive！ DriveⅡが付属するLive！ DriveⅡはPCの5インチベイに取り付け，本体カードとはフラットケーブルで接続する。PCのフロント側からオーディオ入出力の端子へ簡単にアクセスできるので，接続性は飛躍的に向上する。

Live！ DriveⅡに用意されているのは，コアキシャル，オプティカルのデジタル入出力と，ライン，マイクのアナログ入力，MIDI入出力，それにヘッドホン出力だ。

Live！ DriveⅡの利点は，ケーブルの抜き差しやつなぎ替えが簡単になるだけではない。通常サウンドカードのアナログ入力はミニジャックだが，Live！ DriveⅡのライン入力はRCAピンジャック，マイク入力は標準ジャックなので，一般的なオーディオ機器やマイクも変換なしで接続できる。また，ヘッドホンとアナログ入力にはレベル調整ノブも装備しており，録音時などのレベル調整が簡単に



MP3の作成，管理を行えるDigital Audio Centerでは，Live！の内蔵エフェクトを適用したMP3を作成可能。MusicMatch JukeboxのOEM版なのでエンジンはXing製

LAVA！は再生したサウンドに反応し，任意のテクスチャを貼り付けた3Dオブジェクトが動くアニメーションを作成可能。MP3と関連付けて保存することができる

標準ジャックやデジタル，アナログの多彩なインタフェースを持つLive！ Drive Ⅱ。Platinumの使い勝手を大きく向上させる

本体カードのインタフェースは新シリーズ共通。Digital DIN/4ch S/PDIFデジタル出力が新しい

Digital Audioに付属するデジタルI/Oモジュールとデジタルインタフェースカード

できるところもありがたい点だ。

バージョンアップしたLive！Ware 3.0

次にソフトウェアについて見てみよう。全製品に共通して付属するソフトとして，「Live！Ware」がある。Live！WareはLive！の機能を追加，強化するソフトで，Live！の設定を行うソフトや，Live！の多彩な機能を利用するためのさまざまなソフトが含まれている（内容はグレードによって違う場合がある）。Live！Wareはクリエイティブメディアのwebサイトからダウンロードして利用できるほか，CD-ROMでの販売も行われるため，以前のシリーズのユーザーでも新たな機能を利用できるようになっている。

今回の製品に付属するLive！Wareのバージョンは3.0。インターネットを意識したソフトが追加されているのが特徴だ。Live！Wareソフトの一つ，「LAVA！」はOpenGLによる3D CGがサウンドに同期して動くアニメーションを楽しめるソフト。MP3と関連付ければ，オリジナルのビデオクリップを作成することも可能だ。http://www.lavamusic.com/ではすでに多数のLAVA！ビデオが公開されているので，興味のある人は覗いてみてほしい。

「MediaRing Talk 99」は，音声を使った通信ができる，いわばインターネット電話ソフト。Live！のエフェクトを使って声を変えて通話することもでき，通常の回線に電話をかけることもできるなど，多様な楽しみ方が可能だ。

さらに，Digital AudioとPlatinumには，MP3のエンコード機能を持った「Digital Audio Center」が付属する。これはXingのエンジンを使った高速なMP3変換がウリの「MusicMatch Jukebox」のOEMバージョンだ。320Kbpsまでのエンコードが可能で，Environmental Audioのエフェクトを適用したMP3の作成も可能になっている。

そのほかのソフトをグレードごとに見てみよう。

X-Gamerには，「Descent3」「Half-Life Day One」「Thief」「Need for Speed4」の4本のゲームタイトルがバンドルされる。これらはいずれもEAX対応で，Live！の強力な3Dオーディオ，エフェクトの効果をすぐに体感でき，まさにサウンドにこだわるゲーマー向けのパッケージといえる。

Digital Audioには，シーケンサの「Cakewalk」，波形編集ソフトの「Sound Forge」といった，音楽，サウンド制作用の定番ソフトがバンドルされている。Cakewalkは Express Gold8.0英語版という，国内では発売されていないグレードで，使えるオーディオトラックは四つまで，DirectXプラグインに対応していないなど機能縮小バージョンだが，さすがに使いやすさは秀逸。DTMを始めるには持ってこいのソフトだ。Sound Forgeも機能縮小版のXPだが，基本編集機能はフルに装備しており，WAV，AIF，AUからAVIまで多くのファイルに対応する。RealAudioやASFなどのストリーミングメディアの作成も可能と，非常に便利なソフトだ。

これらのソフトや付属するハードウェアを見ると，Digital Audioは旧Live！シリーズの最上位グレードのProと同様の内容になっており，単にサウンドを楽しむだけでなく，音楽，サウンド制作目的のクリエーターに向けたパッケージになっている。しかも旧Proよりも約1万円近く低い価格になっているのだから，コストパフォーマンスにも優れている。

Platinumには，X-GamerとDigital Audioに付属するソフトがすべてバンドルされている。ハードウェアも最も多くの入出力をサポートし，接続性も良好，まさに最強のパッケージだ。

ところで，Platinumに付属するLive！Drive Ⅱだが，今後単体でも発売される予定があるそうだ。これを購入すれば，X-GamerのユーザーでもPlatinumと同様の構成を実現できるのである。とはいえ，合計の価格を考えると，付属ソフトの豪華なPlatinumを初めから購入するほうが結局は安くつくだろう。MDなどの外部機器を活用したいなら，Platinumが最もコストパフォーマンスに優れているといえるかもしれない。

（田澤 仁/アクロバイト）